

今回は“生まれながらのハンター”こと、カマキリの登場です。

生まれて間もない“赤ちゃんカマキリ”でさえ、動くものには飛びかかってしまう、その相手が例え兄弟姉妹であったとしても…

さて、「螳螂の斧」(とうろうのおの)という言葉をご存じでしょうか？

“勝ち目のない相手に無策で挑む無謀なさま”を言い表しているのですが、これはカマキリが鎌(前脚)をあげて、羽をいっぱい広げて威嚇しながら、自分よりもはるかに大きな「車」に立ち向かっていった、という**故事**から来ているようです。

また、カマキリの大きな眼を見ていると、何故かいつでも、どの方向から見ても“目が合う”のは一体どうしてなのでしょう？

実は“目が合っている”という訳ではなく、光の角度で「瞳」のような黒い点が見えているだけなのです。この黒い点は「**偽瞳孔**」と呼ばれています。

このように、カマキリの複眼の中には偽瞳孔(黒い点)が見えるのですが、見る角度を変えても、顔は動いていないにも関わらず、まるで目が合うようにこの偽瞳孔だけが動くのです。

もう一つの疑問ですが、交尾中に**雌が雄を食べる**という行動が見られるようですが、これは子孫を残すためには不利益なことではないのでしょうか？

実は決して“不利益”ではないのです。

カマキリの雌は交尾の際に必ずその相手(雄)を食べてしまう訳ではありません。

お腹が空いていれば食べることもあるようです。これは、産卵を控えて十分に栄養を蓄えておかなければならないため、と言われています。

そして、食べるときはいつも“**頭から**”です。

その理由は…

雄の“交尾を支配する中枢”が頭の中の“脳”ではなく、腹部の“**神経節**”にあることを本能的に知っているからなのでしょう。

つまり、雄は交尾直前に雌に捕まって、頭から食べられても交尾行動を起こしますし、交尾中に頭にかぶりつかれて食べ始められても交尾を続行させることができるのです。

腹部の“神経節”が無事な限り…

◆写真①～⑥： オオカマキリ

◇①～④は雌の背中に雄が乗っていますが、どれも目が合っているように見えますね…

◇⑤と⑥の個体は、大和葛城山頂の草原で出会いました。

◆写真⑦・⑧： オオカマキリ(雌)

◇この個体は、「ショウリョウバッタ」の雌を食べていました。

◆写真⑨： オオカマキリの卵鞘

◇この中に卵が200～300個も入っています。孵化は来春ですね。

◆写真⑩： オオカマキリ

◇交尾中のペア。 で、でも… (この写真は岬町で撮影したものです)



















